

## 荒木悠展 : LE SOUVENIR DU JAPON ニッポンノミヤゲ

会期:2019年4月3日(水)~6月23日(日)

### 開催のお知らせ

資生堂ギャラリーでは、国際的に活躍する映像作家、荒木悠の新作による個展を開催します。

荒木悠は、昨年ロッテルダム国際映画祭で Tiger Award を受賞、2019 年キエフのピンチューク・アートセンターで開催中の Future Generation Art Prize の最終候補となりました。世界各地での滞在制作などを通して、文化の伝播と誤訳、その過程で生じる差異や類似などに着目し、社会・歴史を背景にした映像作品を制作しています。

資生堂は、今年が資生堂ギャラリー創設 100 周年にあたり、2022 年には創業 150 周年を迎えます。資生堂ギャラリーを設立した資生堂初代社長の福原信三は、経営者であり写真家でもありました。大学を卒業後、1908 年から 1913 年までアメリカ、ヨーロッパに滞在し、西洋で学んだことを東洋の感性と融合させ、資生堂の経営や美意識の醸成に活かしました。また、写真家としては、独自の視点で外国を撮影した『巴里とセイヌ』『西湖風景』『布哇風景』などの写真集を残しています。

その少し前、ちょうど日本が急速に近代化・西洋化を進めていた明治期に日本を訪れ、紀行文を残したフランス人の作家がいました。荒木悠は、その作家、ピエール・ロティに着目し、彼の著作である『秋の日本』(Japoneries d' Automne, 1889)を作品の素材のひとつに選びました。ピエール・ロティ(Pierre Loti 1850-1923)は、海軍将校としてポリネシア、アフリカ、アジアなどに滞在し、さまざまな紀行文や小説を書き残しています。それらは、植民地政策で支配的立場にあったヨーロッパからのまなざしで描かれてはいるものの異文化に対する強い好奇心と憧れがあらわされており、『秋の日本』には美しい日本の自然や日本人の美意識を称賛する表現も多くみられます。

本展のメインとなる映像作品は、『秋の日本』のなかの「江戸の舞踏会」の章がベースになります。これは、明治 18 年に鹿鳴館で催された舞踏会を訪れたロティが、35 歳の自身の視線でその様子を描いた見聞録です。これをもとに芥川龍之介が 1920 年に『舞踏会』を書いています。それは、舞踏会でロティのダンスの相手をした 17 歳の初々しい日本人女性が主人公です。映像では、このふたつを原作として東洋と西洋の「まなざし」がワルツを軸に同じ時空間のなかで交差する情景を作り出します。そしてもうひとつの映像作品は、『秋の日本』に収録されている「聖なる都・京都」「日光霊山」「江戸」の章でロティが記録した場所を荒木が撮影し、100 年以上前と現在とのズレから、映像に写らない「風景」を描写することを試みます。

歴史のひとつまに異なる視点を重ねて作った今回の映像を、もし 100 年後の人々が見たならば、今度はその滑稽さに微笑んでしまうような時空を超えたお土産(souvenir)としてこの展覧会が成り立つことを目指します。東洋と西洋、ジェンダー、階層、世代、時代など、さまざまな差異の交錯が浮かび上がる今回の作品を通して、多文化共生を目指す現代社会における「他者理解」や「寛容」について考えるきっかけとなりましたら幸いです。

---

## ■プロフィール

荒木悠 あらきゆう(映像作家)

1985 年山形市生まれ。東京都在住。2007 年ワシントン大学サム・フォックス視覚芸術学部美術学科彫刻専攻を卒業。2010 年東京芸術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士課程修了。2013 年スペイン・サンタンデルのボティン財団主催タシタ・ディーン・ワークショップに参加。2017-8 年ゲスト・レジデントとして韓国光州の国立アジア文化殿堂およびオランダ・アムステルダムのリイクスアカデミーに滞在。

近年の主な展覧会：国立国際美術館(大阪)、無人島プロダクション(東京)、岡山芸術交流 2016(岡山)、横浜美術館ギャラリー1(横浜)、ジョアン・ミロ財団現代美術研究センター(バルセロナ)、ダラス・コンテンツポラリー(ダラス)など国内外多数。映像作品はこれまでにBFI ロンドン映画祭、オーバーハウゼン国際短編映画祭、Recontres Internationales Paris/Berlin、恵比寿映像祭、香港国際映画祭など多くの映画祭でも上映されている。2018 年には短編《WRONG REVISION | 利未記異聞》と共同監督を務めた《Mountain Plain Mountain》の二作品が第 47 回ロッテルダム国際映画祭に正式招待され、後者はタイガー・アワードを受賞。2019 年キエフのヴィクトル・ピンチューク財団主催の第 5 回フューチャー・ジェネレーション・アートプライズの最終候補に選出される。

---

## ■「荒木悠展:LE SOUVENIR DU JAPON ニッポンノミヤゲ」

### 開催概要

主催：株式会社 資生堂

会期：2019 年 4 月 3 日(水)～6 月 23 日(日)

会場：資生堂ギャラリー

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-8-3 東京銀座資生堂ビル地下 1 階

tel. 03 -3572 -3901 fax. 03 -3572-3951

URL: <http://www.shiseidogroup.jp/gallery/> (資生堂ギャラリー)

平日 11:00～19:00 日・祝 11:00～18:00 毎週月曜休

(月曜日が祝日にあたる場合も休館)

入場無料

---

## ■関連企画

詳細が決まり次第ウェブサイトにてお知らせいたします。

---

## ■参考画像



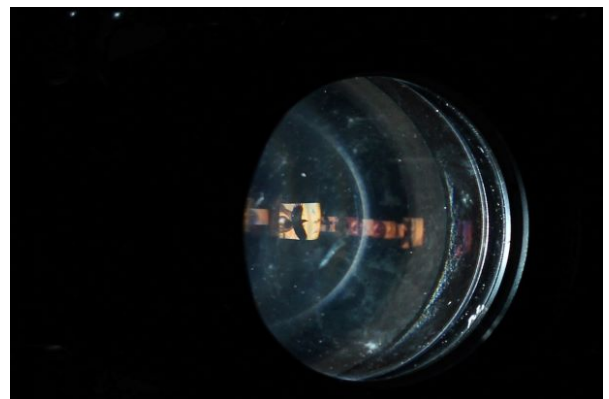
2019  
 Bivalvia: Act I  
 installation view  
 PinchukArtCentre, Kyiv, Ukraine



2018  
 LOST HIGHWAY (Sweded)  
 installation view  
 Volvo Studio Aoyama, Tokyo



2013  
 When the world is in your hands  
 Digital image



2012  
 ALMOST DOWN  
 installation view

<p>本展に関するお問い合わせ先</p>	<p>〒104-0061 東京都中央区銀座 7-5-5          株式会社 資生堂 社会価値創造本部          担当: 豊田、板垣          tel. 03-3575-5432 fax. 03-3575-5429          (10:00~17:00 土日祝休)          e-mail: keiko.toyoda@to.shiseido.co.jp          mika.itagaki1@to.shiseido.co.jp</p>
<p>写真資料請求先</p>	<p>資生堂ギャラリー 担当: 永田・大橋          tel. 03-3572-3901 fax. 03-3572-3951          (11:00~18:00 月曜休)          e-mail: ayako.nagata@to.shiseido.co.jp          noriko.ohashi@to.shiseido.co.jp</p>